



 Data	2022-30
監督:	マット・リーヴス
脚本:	ピーター・クレイグ
出演:	ロバート・パティンソン/ゾーイ・クラヴィッツ/ジェフリー・ライト/ポール・ダノ/コリン・ファレル

## みどころ

本来、引き立て役の“ジョーカー”が、『JOKER』（19年）でヴェネチア国際映画祭の金獅子賞を受賞したのなら、“正義の味方”バットマンも巻き返さなければ！

そんな意欲満々の2時間56分の大作は、若き日のブルース・ウェインの“出自の秘密”を含む、バットマン誕生秘話だ。キャットウーマンとの友情（？）もあるが、メインは“悪の権化”リドラーとの対決！

謎かけを含む劇場型のハラハラ・ドキドキの展開はいかにも今風だが、ゴッサム・シティの再開発を巡る権力構造への切り込みは如何に？



### ■□■バットマンあれこれ！アメコミあれこれ！よく続くなあ■□■

スパイダーマンやバットマン、さらにはキャットウーマン等々の、いわゆる「アメコミ」のスーパーヒーローたちの映画を、私はとうの昔に卒業！そう思っていたが、本来は“正義の味方”バットマンの引き立て役である“ジョーカー”の誕生秘話を描いた『JOKER ジョーカー』（19年）が、ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞したから、全世界はビックリ！

私もそれを鑑賞し、星5つとした（『シネマ46』20頁）。それまでに観た『バットマン ビギンズ』（05年）（『シネマ8』127頁）も『ダークナイト』（08年）（『シネマ21』25頁）も星3つだった。

したがって、本作も積極的に観ようという気持ちはなかったが、新聞紙評でかなり高評価をしていることもあって、劇場へ。2時間56分の長尺だが、一体どんな物語に？

### ■□■市長選挙戦の真っ最中に、候補者が殺害！■□■

去る3月6日に投票された韓国の大統領選挙では、野党のユン・ソギョル（尹錫悦）

候補48. 56%VS与党のイ・ジェミョン(李在明)候補47. 83%という僅差で決着がついた。しかして、本作冒頭は、犯罪はびこる都市、ゴッサム・シティの市長選挙から始まる。ゴッサム・シティの再開発を目玉政策に掲げる現職に挑むのは若い女性候補だが、TV討論会における論戦は如何に？

本作のストーリーが動き始めるのは、ハロウィンで街中が溢れかえっている中、現職市長が殺害されることからだが、そりゃ一体なぜ？厳戒態勢の中、一体誰が何を狙って犯行に及ぶの？

1963年11月22日に暗殺されたケネディ大統領の犯人は今なおわからないままだが、何でも“劇場型”になっている今は、リドラー(ポール・ダノ)と名乗る犯人が、さまざまな“謎かけ”をしながら警察を挑発！重要な犯行現場に、なぜコスチュームに身を包んだバットマン(ロバート・パティンソン)が同席しているの？そんな疑問も大きいですが、そこから“史上最狂の知能犯”リドラーVS“正義の味方”バットマンの謎解き合戦(知恵比べ)が始まることに。

## ■□■この男の出自を巡る秘密は？周辺のキャラあれこれ！■□■

2時間56分の長尺になった本作の登場人物は多い。本作のテーマは若きブルース・ウェインが、いかにしてバットマン=正義の味方になっていったのかという、“バットマン誕生秘話”だが、“独白”を多用する本作では、若き日のブルース・ウェインは、かなり複雑な“出自の秘密”があるらしい。その独特の語りはかなり重々しいが、それが本作中盤から登場してくるキャットウーマン(ゾーイ・クラヴィッツ)の出自と絡まってくると、さらに重々しくなってくる。親の因果が子に報いるのは当然だが、なぜバットマンもキャットウーマンも自分の出自でそんなに悩んでいるの？

『バットマン』シリーズでは“ジョーカー”と共にペンギン(別号オズ)が有名だが、本作ではコリン・ファレル扮するペンギンがゴッサム・シティの人気高級ナイトクラブ、アイスバーグ・ラウンジの経営者として登場し大きな役割を果たすので、それに注目！ひとり一人紹介していけばキリがないので、“以下省略”だが、本作では何といても天才的な頭脳でバットマンを陥れようとする“悪の権化”リドラーに注目！冒頭の現職市長の殺害にもビックリだが、その後、ゴッサム・シティの有力者が次々と殺害されているので、それにもビックリ！その黒幕こそ、リドラーだが、リドラーの最終標的はバットマン本人になっていくから、さあ大変！バットマンの対応は？

## ■□■バットマンの誕生日秘話 VS ウクライナの現状■□■

正義の味方バットマンはなぜゴッサム・シティで誕生したの？それはゴッサム・シティが“犯罪はびこる都市”だったからだ。選挙戦で熱弁を奮う現職市長は、一方では政財界の癒着構造下、麻薬取引で巨額の利益を独占していた悪人たちを次々と逮捕し、他方ではゴッサム・シティの再開発を次々と成功させたことによって、都市のつくりかえを完了させていた。

2022年3月の今、連日報道されているロシアによるウクライナ侵攻はすでに3週間になっているが、ウクライナ軍と各地に今なお居住している市民たちの抵抗は強い。それを鼓舞しているのがゼレンスキー大統領だが、彼は3月16日、アメリカの連邦議会において、オンライン演説を行った。その内容は、米国のこれまでの支援に感謝しつつ、さらなる軍事的な支援を求めるものだったが、その素晴らしい内容に私は米国の議員たちと共に感服！ゼレンスキーは“しっかり者”だな、ということであらためて全世界が実感したはずだ。彼は日本の国会でもオンライン演説を希望しているそうだが、さて岸田内閣の対応は？

一介のコメディアンだったゼレンスキーが、なぜ大統領になったの？また、大統領就任後、支持率の低下にあえいでいたゼレンスキーがなぜ今、90%を超える支持を受けているの？それは、ロシアのプーチン大統領がウクライナ侵攻＝戦争を断行したからだ。つまり、ゼレンスキーが“正義の味方”の大統領になれたのは、“悪の権化”ともいうべきプーチン大統領のおかげ。

それと同じように、ゴッサム・シティにおけるバットマンの誕生は、リドラーという“悪の権化”が市長殺害という形で再び登場してきたからだ。なるほど、なるほど。しかして、今バットマンはリドラーから次の殺害のターゲットにされてしまったが、さてその戦いの行方は？プーチン VS ゼレンスキーの戦いは連日多くの専門家が解説してくれているが、さて、正義の味方バットマン VS 悪の権化リドラーの対決は如何に？

## ■□■この町はなぜ犯罪はびこる都市に？再開発の成否は？■□■

私のライフワークは都市計画法や都市再開発法を軸としたまちづくりの法と政策。1980年代からのその実践は40年以上だから、本作における殺害された前市長が進めてきたゴッサム・シティの再開発には大いに興味がある。本作では、現職市長が進めてきた麻薬撲滅の戦いと再開発による都市のつくりかえの戦いが俯瞰され、要領よく解説されるので、それをしっかり確認したうえで、現在の市長選挙を巡る“争点”をしっかり整理したい。現職市長の功罪は、人によって、また立場によってさまざまだが、何と本作ラストでは、東日本大震災の津波の被害を彷彿させる大爆発と洪水の惨事がスクリーンいっぱい広がるので、それに注目！

この大爆発は、一体誰が引き起こしたの？その目的はナニ？2月末から始まったロシアによるウクライナ侵攻は許し難い暴挙だが、本作ラストに見る、リドラーの策動によるそれも、同じ暴挙と言わざるを得ない。対立候補だったあの女性市長候補は、破壊されたゴッサム・シティをどう再建していくの？そう思っていると、何と彼女もリドラーの標的に・・・？

ここまで物語が広がっていけば、そりゃ2時間56分の長尺も止むなしだが、物語はいかなる収束を・・・？そして、また次回作への期待と展望は・・・？

## ■□■音響効果の功罪は？■□■

映画作りに音楽が音響効果を含めて重要な役割を果たすのは当然だが、本作の音楽は一貫して重々しい。字幕版ではなく、日本語吹替版を半分目をつぶって観ていれば、ストーリー展開や独白に伴う音響効果についてより強く意識できるかもしれないが、これが3時間近く続くと、いい加減疲れてくるのは当然だ。すると、その功罪は？

2022（令和4）年3月15日記